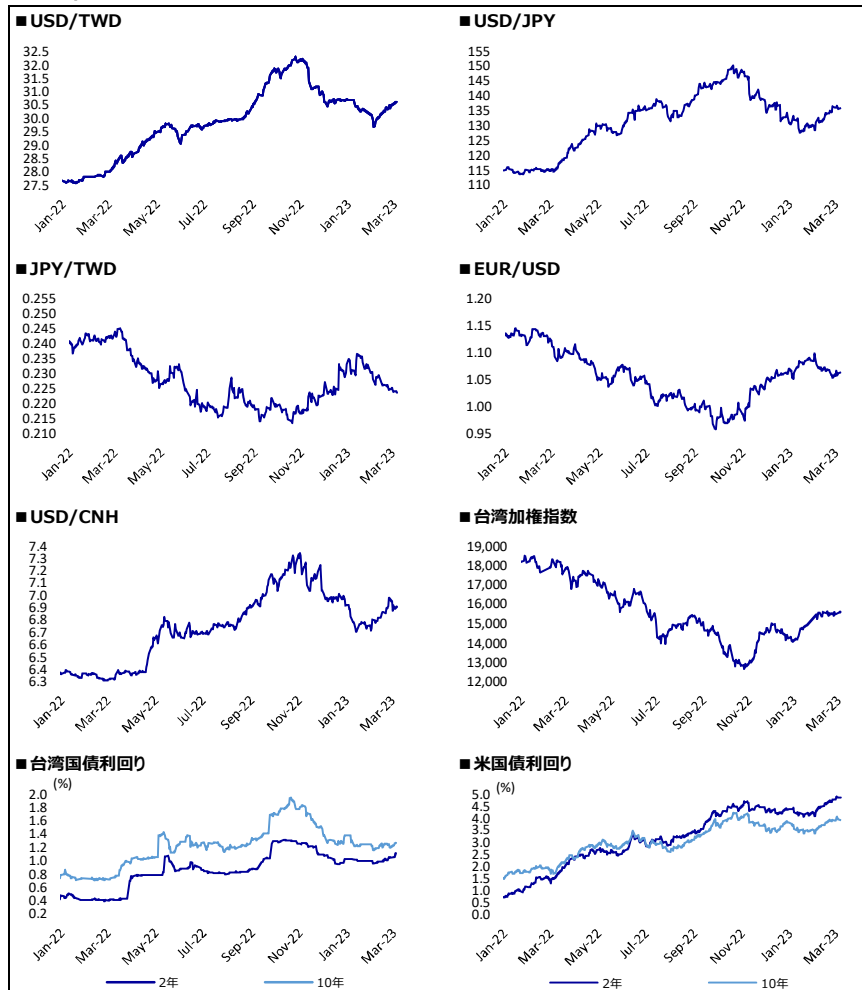


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。台湾連休期間のドル高を受けて、連休明けの週初3/1は30.560とギャップアップしてオープン。一時30.652まで上昇したものの、30.6台では輸出企業のドル売りが入り、また台湾株が上昇したこともあり、30.5台後半まで下落した。3/2は引き続き輸出企業のドル売りから一時30.531まで下落したが、ドル売り一巡後は輸入企業のドル買いも入り、30.6台に戻した。3/3は輸出企業のドル売りから一時30.6台を割る場面も見られたが、明確な方向感は見られず、レンジで推移し、最終的に先週比0.5%ドル高台湾ドル安の30.627で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は95.8億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は一時昨年12月ぶりの137円台に乗せるもその後は下落。週初2/27は136.30でオープン後、特段材料ない中、136円台前半での推移が続いた。2/28は引き続き材料難の中、動意に乏しい展開が続いたが、フランス、スペインの2月CPIの強い結果を受けて、ユーロが買われるとつられて円が売られ、136円台後半まで上昇。しかし、米2月消費者信頼感が予想以上に悪化したことや月末の持ち高調整の円買いもあり、135円台後半まで下落した。3/1は136円台に戻したものの、ユーロがドルに対して買われると、ドル円も一時135.25まで下落した。しかし、米2月ISM製造業景気指数における仕入れ価格指数の上昇からインフレへの警戒感が高まり米金利が上昇するとドル円も上昇し、136円前半まで戻した。3/2は前日の流れを引き継ぎ、米金利上昇・ドル高となると、ドル円は一時137.10まで上昇。ドル買いが一服すると136円台後半に戻した。3/3は前日までに上昇した米長期金利が下落するとつられてドル円も136円台を割り込み、最終的に先週比0.5%ドル安円高の135.81で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.450-30.650
今週はレンジでの推移を見込む。先週は米経済指標からインフレ懸念が再燃し、ドル高の流れとなったが、今週は米雇用統計を週末に控えており、それまでは明確な方向感はいくいと見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：134.00-138.00
今週はパウエル議長議会証言、日銀会合、米2月雇用統計とイベントを控え、ボラタイルに動く見込む。特に米雇用統計は前回1月の結果を受けてドル高の流れを作っており、引き続き強い結果となった場合、ドル高の流れが続くであろう。

今週の予定

3/6 (MON)	
3/7 (TUE)	台湾2月CPI、台湾2月貿易収支
3/8 (WED)	米2月ADP雇用統計
3/9 (THU)	
3/10 (FRI)	日銀金融政策決定会合、米2月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。